

### チェルノブイリ事故と福島事故の周辺線量率の比較

原発事故規模の第一の目安は放射能放出量であるが、福島事故はまだ進行中の事態であり放出量の推定は困難である。そこで、周辺環境での放射線量率をめやすとしてチェルノブイリと福島を比較してみた。

3月15日に『2号炉格納容器部分破壊、4号炉使用済み燃料プール水素爆発』という発表をきいた際から私は、『ほとんどチェルノブイリ』という表現をしてきたが、下図からは(福島の30km以内はデータがないが)、環境汚染の現状は『もう少しでチェルノブイリ』と推測される。

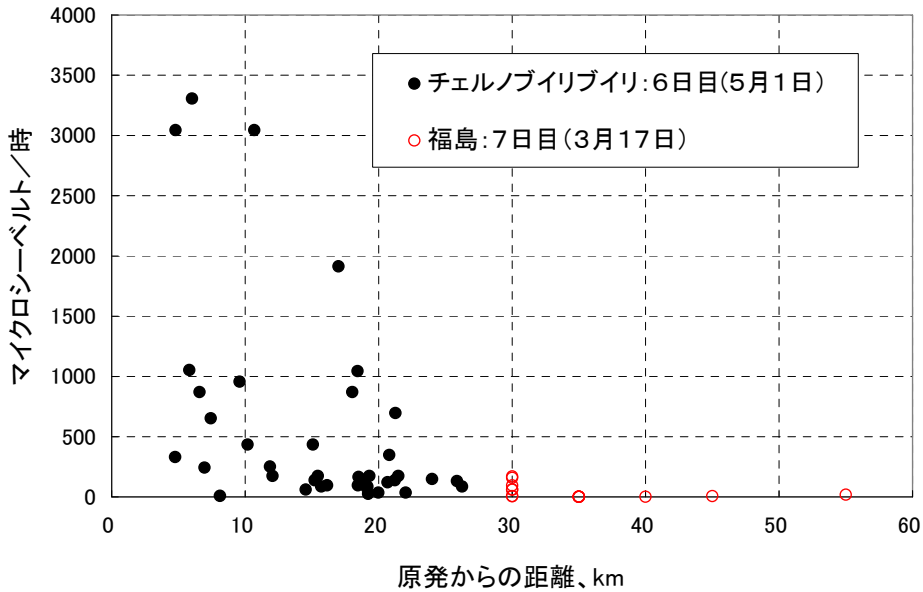


図1. 原発からの距離と環境中の放射線量率

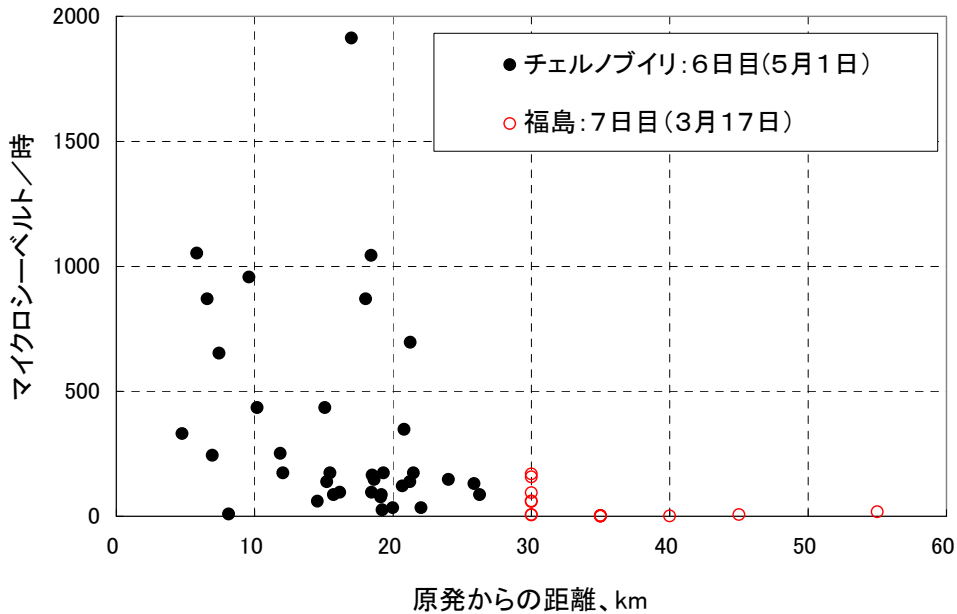


図1 a. 原発からの距離と環境中の放射線量率 (チェルノブイリの上位3点を除外)

データの出典:

チェルノブイリ: I.K.Baliff and V.Stepanenko ed., "Retrospective Dosimetry and Dose Reconstruction", Experimental Collaboration Project ECP-10. EUR 16540, EC, 1996.

福島: 文科省ホームページ: [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/saigaijohou/syousai/1304001.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/saigaijohou/syousai/1304001.htm)